

(社)日本詩人クラブ 2022年 10月例会のお知らせ

日時 2020年10月8日(土) 14時～17時

会費500円(会員・会友も)

会場 赤羽会館小ホール

*YouTubeでの配信はありません。

詩朗読&スピーチ「わが詩・わが郷を語る」

大山いづみ (日野市)

1955年生。当会の他、福島県現代詩人会・いわき文藝風舎。詩小説『ボクと大地』(2012)、詩集『心の風景と地下室』(2015)『言葉の花束』(2021)。2013年の東京移転前、3.11には福島県中通りにいて震災を経験。アメログやHPで、<福島&私>を発信中：<https://izumi-ohyama.jindofree.com> 他。

木村孝夫 (いわき市)

1946年生。日本現代詩人会、日本詩人クラブ会員。ネット詩誌「MY DEAR」、詩人会議会員、第67回福島県文学賞詩の部門「文学賞」、第21回白鳥省吾賞「優秀賞」、2011年の東日本大震災から1年過ぎた頃から、震災詩を書き始めて今に至る。詩集『福島の涙』、『言霊』、『十年鍋』他、ツイッターで週2～3回詩作品を発表。

後藤基宗子 (郡山市)

1944生・福島県・日本ペンクラブ・日本現代詩人会・日本詩人クラブ・日本童謡協会他に所属・福島県文科関係指導者・元福島県詩人会理事・事務局長・元郡山自由大学講師・元文芸教室講師他・所属詩誌「青い花「ちぎれ雲」詩集七冊。

講演と対談「原発と女性表現者」

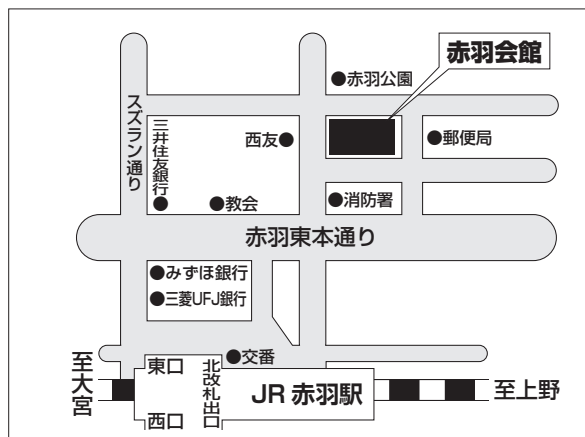
齋藤 貢 福島×チェルノブイリ×ノーベル賞作家S・アレクシェービッチ

詩人。1954年福島県生まれ。1979年に高校教員となり、2011年の震災時には、福島県南相馬市小高区にある福島県立小高商業高等学校に勤務していた。勤務校は、事故を起こした福島第1原子力発電所から北西へ約14キロの場所にあり、「警戒区域」となって、自由に立ち入りができなくなった。2016年11月には、来日したスベトラーナ・アレクシェービッチさんを常磐線小高駅で出迎え、被災地を案内した。その様子は、NHKで「BS1スペシャル」として放映された。2019年に、詩集『夕焼け売り』で第37回現代詩人賞を受賞。他の詩集には、『奇妙な容器』(1987年、福島県文学賞)、『竜宮岬』(2010年)、『汝は、塵なれば』(2013年)等。「歷程」「白亜紀」「孔雀船」「雛嚙栗」同人。現在、福島県現代詩人会会長。

佐川亜紀 原発×韓国女性表現者

詩人。1954年東京都生まれ。詩集『死者を再び孕む夢』(小熊秀雄賞、横浜詩人会賞)、『押し花』(日本詩人クラブ賞)等。共編訳『日韓環境詩選集 地球は美しい』等。韓国昌原KC国際詩文学賞受賞。コロナ禍直前に訪韓取材し、『韓国文学を旅する60章』(明石書店、2020年)で、韓国女性詩人の文貞姫さんについて執筆した。

文貞姫さんは東日本大震災後に日本を励ます詩を韓国の新聞「中央日報」に寄稿し、エコフェミニズムを提唱している。女性作家パク・ソルメは福島第一原発事故と韓国古里原発に関する新しい小説を書いている。たくさんの詩集が並べられているソウルの書店の様子もご紹介します。現在、日本現代詩人会理事長。※5月に逝去した環境運動の先駆者・金芝河についても少しお話しします。



10月例会会場

赤羽会館

〒115-0044 東京都北区赤羽南1-13-1

TEL : 03-3901-8121

FAX : 03-3902-4226

- JR赤羽駅 東口
(京浜東北線、埼京線、高崎線、宇都宮線) 徒歩5分
- 地下鉄南北線赤羽岩淵駅 徒歩10分

例会担当理事 谷口ちかえ